

進化し続ける子育てとは

緑ヶ丘幼稚園

有馬園長に聞く

先月に卒園生を送り出し、今週、入園式を行った緑ヶ丘幼稚園（和田）が53年目となる新たなスタートを迎えた。

コロナ禍が過ぎ、年中行事はほぼフル開催で実施できるようになった。新たなスタイルが求められる幼児期の教育などについて同園の園長で、昭和女子大学専門職大学院非常勤講師「保育実践・経営論」も務める有馬篤樹園長に話を聞いた。

有馬園長は「当園は未来を見据え、様々な場面においても主体的に自分で考え判断できる力を培います。特に幼児期に大切な直接体験をできる限り本物に触れることにより、今後の人生においての判断力や実物を見分ける力、そして感性やクリエイティブ力を養っていきます」と話す。

例えば、ビオトープや水槽などで生き物を育て、実際に移動動物園を招いて直接触れ合うことなどから、それぞれの動物の特長をつかみ、思考力と想像力を働かせることができるという。

同園の広い園庭で、最

新の様々な遊具を使って園児が伸び伸びと遊んでいる姿もよく見られる。

有馬園長は「自然豊かな園庭で在籍人数370名以上という多くのお友達との関わり、そして多様な体験活動や音楽界で最先端のave xのダンス活動、ネイティブ講師による英語指導などは大きな人間性を培うことにつながっています」と話す。伝統の広い園庭を生かしながら、様々な取り組みを導入しようと進化を続ける。

「成長感じた」いちご組

昨年度、導入した「いちご組」の2歳児（満3歳児）も一年間、無事に過ごし成長している。

「いちご組だけの劇の発表会では涙を流している保護者の方もいらっしゃいました。成長を感じた瞬間でした」と有馬園長。たくさんのお園児が過ぎ、「年長の子が年下の子の着替えを手伝い、伝統をつないでいく」そんな姿も見られた。

現場の先生に多くの卒園生や有馬園長が教えている昭和女子大学の卒業

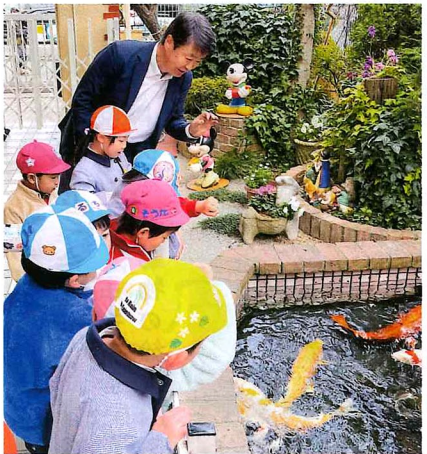


生き物との触れ合いを大事にしている同園

生が多くいることも同園の特長だ。「全教員が教育に対する熱意や高い意識を持ち同じ方向を向いて、オリジナリティな教育を前に進めているのが緑ヶ丘幼稚園です」

幼稚園では珍しい常駐警備員の配置など安全安心を徹底したなかで、保護者が安心して預けられる園をめざす同園。

有馬園長は昭和女子大学の学部だけではなく、専門職大学院にて現場保育者のリーダーの養成にも携わっており、様々な角度の高い見識により子どもたちの保育にあたっている。



園児とコイに餌をあげる有馬園長

2歳児毎日クラス「いちご組」
4年保育 ※3歳から幼児教育無償化の対象

週1~3回・親子登園コース「ひよこ教室」
専門講師による「たいそう」「えいご」「リズム」が好評です。

緑ヶ丘幼稚園
☎042-375-6755
多摩市和田712

詳しくは「チラシからHP」を

大型駐車場 (100台以上) 完備
東京消防庁 優良防火対象物 認定施設